

知多市の課題「雇用」と「商業」

統計データの分析をもとに、知多市の課題である「雇用」と「商業」について、知多半島内の5市での比較をお示しさせていただきます。平成26年に行われた商業統計と経済センサスのデータが公表されたことから、現在の知多市と近隣市の状況が明らかになりました。併せて平成28年3月の市議会総務委員会の議案審査のなかで、知多市の地方消費税交付金の人口一人あたりの交付額が愛知県内の市で最も低いとの答弁があり、原因を確認したところ、「本市の場合、他市に比べて従業者数割が低いため交付額が少なくなっている。」とのことでした。そこで、「雇用」についての比較として人口一人あたりの従業者数をお示しさせていただきました。

これらの比較から知多市は、知多半島内の他市と比較して雇用も商業も概ね半分程度ということがわかりました。街の収入源ともいえる雇用や商業の規模が小さいことが、危機的な財政状況や人口減少の原因の一つであると考えられます。街の持続可能性を高めるには、雇用と商業の充実が必要不可欠です。

チャンス到来 今こそ変革の時

西知多道路・2027リニアインパクト・セントレア×2 ～知多半島の激変に備えよ～

チャンス到来、今こそ変革の時

西知多道路の整備やリニア中央新幹線の開通、セントレアの2本目の滑走路の整備など、知多市を取り巻く環境はこれから10年の間に激変することが予想されます。街の課題を解決するためにも、10年後の変化を見据えた準備となりうる投資を行う必要があります。



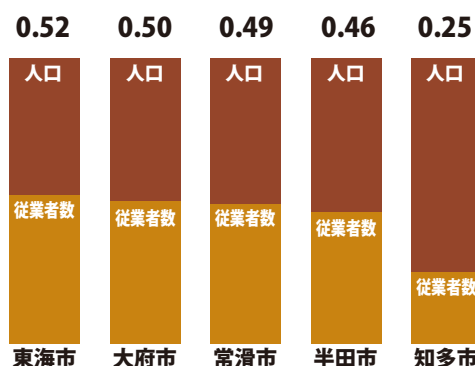
子どもたちの笑顔のために

良い街を作って次の世代に引き継ぐことは、私達大人の役目です。この街ですっとずっと、世代を超えて子どもたちの笑顔が繋がっていくために、今何をすべきでしょうか。みんなで知恵を出し合い、明るい未来を築きましょう。大切な子どもたちの笑顔のために。

雇用

人口1人あたりの従業者数比較

従業者数/人口

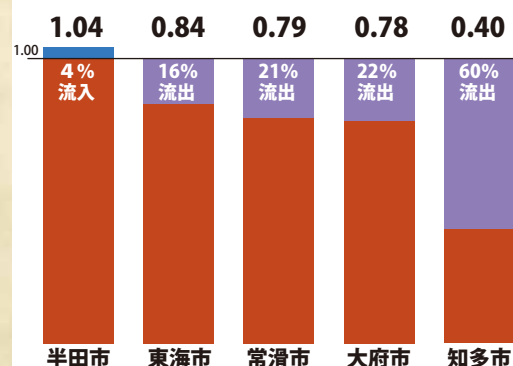


各市の人口1人あたりの従業者数を算出しました。知多市以外は概ね人口の半数程度の従業者数があります。知多市は人口の4分の一しか従業者数がなく、近隣市の半分程度しか雇用がないといえます。知多市の雇用の少なさは、危機的な財政状況や人口減少の大きな要因であると考えられます。知多市で育った子供達が知多市で住み続けられるように、雇用を増やさなければなりません。

商業

街の集客力の目安 顧客吸引力指数比較

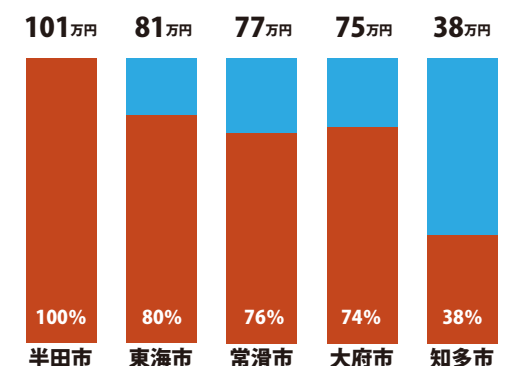
各市1人あたり小売業販売額/県一人あたり小売業販売額



各市町村の人口1人あたりの小売業販売額を県の1人あたりの小売業販売額で除した数値です。指数が1.00以上の場合、買物客を外から引き付け、1.00未満の場合は、外部に流出していると見ることができます。知多市は0.4ですので、6割の消費が流出しており、流出額は年間およそ500億円と推計することができます。この額は知多市の一般会計予算のおよそ2年分に当たります。

人口1人あたりの小売業年間商品販売額比較

小売業年間商品販売額/人口

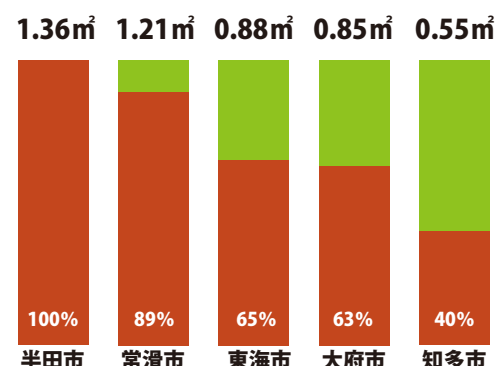


小売業の年間商品販売額を、各市の人口で除した金額です。知多市は最も少なく、半田市の38%しかありません。この額は、知多市民が使うお金が少ないということではなく、顧客吸引力指数と同様に、他市町で購買をするため、低くなっています。これは、知多市内に小売店が少ないことが原因です。市内にお店を増やすための施策を講じる必要があります。

商業

人口1人あたりの小売業売場面積比較

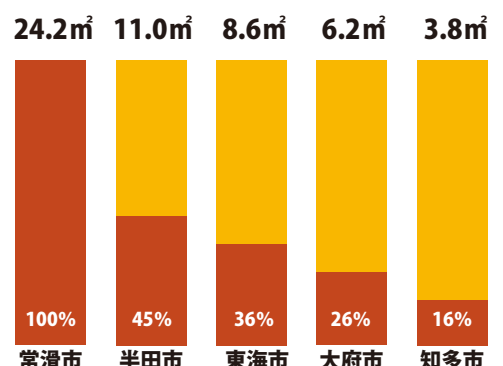
小売業売場面積/人口



小売業売場面積を各市の人口で除した数値です。知多市は最も少なく、半田市の40%しかありません。顧客吸引力指数と小売業年間商品販売額と小売業売場面積は関係性があることがお分かりいただけると思います。東海市と大府市は大型店が多いため、少ない売場面積で常滑市と同程度の販売額があります。知多市が他市並の商業力を持つには2倍程度の小売業売場面積が必要です。

人口1人あたりの商業系用途地域面積比較

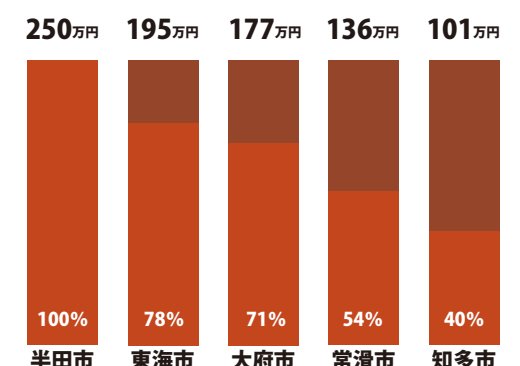
商業地域+近隣商業地域/人口



商業系用途地域である商業地域と近隣商業地域を足した面積を各市の人口で除した数値です。知多市は最も少なく、常滑市の16%、東海市の44%しかありません。知多市の商業力が低い原因として都市計画上の問題があるといえます。商業系用途地域を増やし、商業施設を積極的に誘致する必要があると考えます。西知多道路の建設やリニアを念頭に都市計画を考えなければなりません。

人口1人あたりの年間商品販売額比較

年間商品販売額/人口



卸売業と小売業の年間商品販売額の合計を、各市の人口で除した金額です。知多市は最も少なく、半田市の40%しかありません。この額は、知多市民が使うお金が少ないということではなく、顧客吸引力指数と同様に、他市町で購買をするため、低くなっています。これは、知多市内に小売店や卸売の事業所が少ないことが原因です。これらが増やすための施策を講じる必要があります。